

定年を迎える先生からのメッセージ *Message*



心理学部 准教授
河合 祐子

定年退職にあたって

2007年4月から本学の心理学部臨床心理学の教員として勤め始めましたが、気づいてみればもうこの3月には定年となります。光陰矢のごとしは、まさに今の自分にぴったりの言葉であると実感しております。お世話になりました同僚、教職員の皆様、関係の皆様、学生・大学院生の皆様に、心より御礼申し上げます。教わることで、支えて頂くことが多くあり、ここまで勤めることができたと感じております。

新米大学教員として着任したその年に、文部科学省組織的な大学院教育改革推進プログラムに、心理学研究科臨床心理学専攻の「科学者実践家モデルに基づく臨床心理学教育」が採択されました。3年度にわたるもので、大げさな表現となりますが、「院プロ」の言葉を聞かずに、「院プロ」のことを考えずして一日が終わることはない、そういう日々であったように思います。同僚とともに、全国に先駆けて臨床心理学分野でのOSCEをつくりあげたことも、当時の熱い思いとともに、いまだに心に残っております。

自分自身がカウンセリングや臨床に興味をもちながらも、実験心理学から心理学の道を歩み始め、あちらこちらに寄り道しながら、有能な臨床家になりたいと決意し、そのためには大学院

での系統だった教育・訓練が必要であると考え、留学、就職と10年間をアメリカで過ごしておりました。奇しくも、大学院の臨床教育のみならず、「院プロ」にも携わることから、教員としてのスタートを切ることができたのは、ありがたくも、幸せなことであつたと思っております。

在職期間中のもっとも感慨深いことは何かと尋ねられましたなら、心理学を土台とした心理職の国家資格、公認心理師の誕生とお答えするかと思います。学部と大学院を通して通算6年間のカリキュラムとなったことも、うれしいことでありました。公認心理師の新カリキュラムで入学された方々と一緒に、私も卒業することになります。この先も何らかの形で、公認心理師育成にかかわっていただけたいと思っております。

人のこころの不思議さ、尊さを学んだ卒業生、修了生が世に出る一助を担えたとしたら、教員冥利に尽きると感じております。そして、6学部9学科からなる医療系総合大学での学び、経験、人との関わりが、人間存在の理解に幅と深さをもたらしてくれたものと思います。自分自身の来し方を振り返り、そのように感じております。ありがとうございました。

新任教員・昇任教員・新規選出教員役職者紹介

新任教員

2021年10月1日付

リハビリテーション科学部 (理学療法学科)	助教	只石 朋仁
先端研究推進センター	助教	パウデルドゥルガ
口腔機能修復・再建学系 (高度先進保存学)	歯学部 任期制助手	岩田 宏成

2021年12月1日付

歯学部 (生体機能・病態学系(顎顔面口腔外科学))	助教	久原 啓資
------------------------------	----	-------

昇任教員

2022年1月1日付



歯学部 講師
(生体機能・病態学系(臨床口腔病理学))

吉田 光希 (よしだ こうき)

本学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。北海道医療大学病院研修歯科医、同任期制助手、同臨床助手、本学歯学部助教を経て、講師昇任。歯学博士。

配置替

2021年10月1日付

薬学部(薬学教育推進(薬学教育支援室))	助教	山口 由基
----------------------	----	-------

2021年度 理事長表彰

2021年度の理事長表彰式が、当別キャンパスおよびあいの里キャンパスにおいて2022年1月6日(木)に執り行われ、鈴木英二理事長より表彰状が授与されました。理事長表彰は、特に表彰の価値があると認められた方を対象に授与するもので2021年度は以下の方が表彰されました。



- 二瓶 裕之<薬学部・教授>
- 西牧 可織<心理学部・助教>

情報センター長および情報センター主任として本学のDX化プロジェクトを推進し、2021年3月11日には「医療系大学における学生参加型AI開発による学修者本位の教育の実現と普及」の取組みが文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択、さらに2021年8月4日には、本学の情報科学教育プログラムが文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)プラス」に選定され、本学の発展に大きく貢献した。



- 大村 一将<歯学部・准教授>

感染対策委員会委員長・職域接種統括責任者として、新型コロナウイルス感染症対策の先頭に立ち、学生・教職員の感染予防に尽力した。

- 佐藤 寿哉<歯学部・講師>

2021年度歯科基礎医学会学会奨励賞を受賞し、受賞論文は糖尿病における唾液分泌障害の治療方法の確立と口腔内環境の改善に向けた新たなアプローチや他の糖尿病の合併症の発症メカニズムの解明の一助となる重要な研究成果となった。